経済教室 22

を回して新しい価値を生み出し、総需要を増やす発想こそいま必要だ。 再分配問題を考えるのは経済活動を活発にした後にすべきである。 者が年金をはじめ再分配の改革ばかりに目を奪われているためだ。カネ 「構造改革」下でカネを巡る利害対立が激化しているのは、政策当事

利害対立拡大 カネ不足原因

好況ではどんどん使う

門などである。 央対地方、勤労世代対老 り合いが起きている。中 不足して、あちこちで取 者屬、公共部門対民間部 **八世代、富裕屬対低所得** 不況でカネが回らずに のにカネは不足しない。

い。一方が得をすれば他 なが楽になれるはずがな けを調整しても国民みん られているから、分配だ しかし、カネの量は限

非同

方で必ず損をする。その

り負担を感じない。

っているのに国民はあま

いから、多額の税金を払

うかから、誰に渡すかに 点は、財政資金をどう使 め政策の重 る。そのた 改革ら対立を超えて >>3

る。人々の購買意欲はま

が戻らず不良價権も増え

から、銀行も貸したカネ

ネが回らず所得も生まれ

は物を買わないから、カ

反対に不況では、人々

ない。企業業績も下がる

ことにな だ、という声が強まる。 いるから他も我慢すべき るとか、自分も我慢して り、誰かが横取りしてい 過程で非難の応酬が起こ めろという けられ、無駄な事業はや この声は特に政府に向

れる。これではますます るかがクローズアップさ シフトし、誰が過剰に取 っているか、どう節約す 入る。そのたびに所得が たカネは必ず誰かの懐に かが物を買えば、支払っ いものだからである。誰 っても決してなくならな カネとは本来、いくら使 ら、国民の負担感は強ま 減るのに所得も減るか 膨らむ。税金の支払額が 収が減少し、財政赤字が かなか回復しない。 すます委縮し、景気はな 消費も所得も減って税

カネは回らず不足する。

ゼロサムどころかマイナ

じでもカネがたくさんあ

批判され、政府事業も減 る。そのため、使い道が

の代わりに七十万円の価

の価値が失われる。

ワークシェアリングや

民経済的にも三十万円分 分の仕事をさせれば、国 なる。その人に七十万円 いる人を引き抜くことに

ところが、百万円の車

円分の所得税が支払わ

れ、財政収入も増加する。

得られる。さらに、百万 支払った額以上の満足が

百万円の価値を生産して

仕事が生まれ、車という

を生産しているから、百

万円で人を雇えば、他で

円の五%の消費税と百万

生まれるから、総量は同

る。 | 肖世凱次はそとに、15スサムの構造改革であるように思う。そのため はさらに回る。 得も消費も増えるから、 カネはちゃんと戻る。所 が回るから銀行も貸した し、株価も上がる。カネ は拡大して財政も潤う。 税率を上げなくても税収 上がって生産効率が上昇 消費意欲は衰えず、カネ 物が売れれば稼働率も である。

いえ、一方で取り立てて 価値生まれる カネが回ればいいとは

も黒字になるし、悪けれ

「カネ回り」生かす発想必要

まずパイの拡大を

しである。 過去最悪の財政赤字見通は三十万円の損をする。 税収の大幅減で本年度は 減努力にもかかわらず、 い。実際、政府の財政削 ってカネはさらに回らな 値のサービスが提供され

らないように反応するの る。反対に、不況でこそ カネを回すべきなのに、 って国民生活が豊かにな ネの量は同じでも、好況 国民も政府もますます回 生み出され、所得が上が の過程で物やサービスが なら何度も回るから、そ このように、たとえカ

カネを回せば

権も発生しない。

実際、日本でも米国で 景気がよければ財政

だから財政赤字も不良債

い。百万円は人から人へ ネは一銭も失われていな だと切り捨てられる。 行う政府事業なら続けら人を雇うことができる。 止される。しかし税金で にすることなく、新たに わないから、民間なら中 万円が失われたと理解さ 百万円かかれば、事業主 か払わない。その生産に れば、顧客は七十万円し と移っただけで、それに 営化しろと言われる。 れる。だからやめるか民このことが理解されない れる。これでは採算が合 そのため、経済的に三十 実は、このときにもカ る。生産をやめさせ、不 企業の整理でも同じであ この状況は、業績不振

より七十万円の価値のサ 小野

とえ他で働いていた人を 価値のない事業は、無駄 況期には他の生産を犠牲 人が働ける。つまり、不 連れてきても、そのポス た労働力が使われる。た るものは変わらず、同じ から、かかった分だけの トが空くから別の余った ピスを生み出すのに余っ で分け合っても、作られ から、七十万円分のサー しかし、今は人余りだ れるだけである。低所得 小が要求される。 再分配である。おまけに を変えるだけの、単なる 税金を誰からどう取るか 方への税源移譲も、同じ 者層への税源拡大も、地 額の給与が細かく分配さ ある。同じ仕事を何人か 臨時雇いの増加も同じで たまり、さらなる財政縮 負担が増す階層に不満が 空回り」ムダ 政権の構造改革が、改革 やり玉に挙げれば、国民 産のすべてを考えれば、 と収縮のスパイラルを生 義と、それを標ぼうする 民が持つ普通の感覚の正 からも支持され、改革の 新たな改革対象を次々と 権にとって都合がよい。 態は改革を標ぼうする政 種も尽きない。結局、 「改革」自体が作り出す たとえ「赤字であって

国

大阪大学教授

いが中心で、なんとか生 の限られたカネの取り合 策は追いつめられた国民

このように、最近の政 経済収縮防げ

しても、国民はなかなか

ことが頭ではわかったと やった方がよい」という

カネの流れや物の生

る当事者が、そこから自

貧成しない。 それを決め

分だけ利益を受けるよう

にできるからである。

担当官庁が事業継続を



雇用も安定して所得も高 では総需要も増えず、何 万円より百万円の物がで て、失職者にはセーフテ ば赤字になる。 好況なら 他方にそのまま渡すだけ ービスが生まれる。 七十 良債権は税金で手当てし 主に流れ、車一台分の仕 しただけであり、それで われずに人から人に移動 事と百万円の所得が生ま ら関連企業の従業員や株 買うと、百万円が顧客か とこそが重要である。 で何かが生み出されるこ が、やめるだけでは七十 う。これではカネは空回 も生まれない。回る過程 きた方がいいのは当然だ ィーネットが必要だと言 れる。百万円は一銭も失 たとえば百万円の車を れる。しかし多くの人々 は正しい。皆が忙しく、 所得に見合った価値の物 担だと言う。 は個々の事業収支が国民 万円のサービスすら失わりするだけで、七十万円 害分の三十万円は国民負 全体の収支だと思い、損 この考え方は好況時に のサービスどころか何も の空回りである。年金制 作られず、所得税や消費 老人世代への純粋なカネ 税収入もなくなる。 度を安定させれば、国民 年金も、勤労世代から も自分の生活が一向に改 カニズムはなかなか理解 善しないのは、抵抗勢力 されない。改革が進んで

うにするか、回しても空 れる。カネを回さないよ は、逆に無駄だと非難さ 収も減る。 本当の無駄が拡大し、税 回りばかりが推奨されて

ところが、こうしたメ

ても、国民はすべて彼ら

の懐に入ったように思っ

がいつまでも続くことに 改革という名の経済収縮 て反対する。その結果、 を受ければ、せっかく経

済活動にカネが回ってい

の請負先から多額の献金 保し、政治家が公共事業 理由にして天下り先を確

ら老人世代にカネを渡し 体が減る危険すらある。 世代の方が消費傾向は強 言われるが、勤労世代か は安心してカネを使うと いから、かえって消費全 増えるはずもない。勤労 ただけで、全体の消費が 対象と「抵抗勢力」と再 りが論点になる。 と思う。年寄りが、地方 分配要求が出てくる。 らず不足し、新たな改革 反対にますますカネが回 ればやるほど、思惑とは はますます縮小する。や 悪化するから、政府事業 費税収も下がって財政は 抑えられ、所得税収も消 だと、カネの再分配ばか や分配の不平等が原因だ が、特定業者が取りすぎ その過程で生産活動が 止した上での積極的な事 ばカネが回り、労働力も 活用される。取り合いは、 ある。経済活動を増やせ ればよい。 全体を増やしてからにす 容をよくしていくべきで り、その上で少しでも内 を受けるような行動を禁 業展開こそが必要であ おの・よしやす 51年 政策当事者が直接利益

皮肉なことに、この事 士。専門はマクロ動学 生まれ。東京大経済学博 かして回そうという努力